

# ビジネスへのガイドライン

Chen Shen, Yaneer Bar-Yam  
ニューイングランド複雑系研究所  
2020年3月2日

## 概要

新型コロナウイルスCOVID-19は著しいスピードで拡大していく病気です。全体の20%はICUなどへの入院、2%は死をもたらし、50歳以上の人々においてはそのリスクは更に高くなっています。また、咳、くしゃみ、微熱などの軽い症状でも、そして場合によっては症状が出る前から他人に感染します。感染を抑えるためには、伝染らないように・伝染さないように、すべての人が人との接触を避けるように心がけなければいけません。あなたのビジネスの生存率は、従業員への直接の影響、そして社会の乱れに作用されます。

組織内外(お客様や卸売業者)での接触・交流が多い企業は、必然的に感染リスクが高くなります。サプライチェーンの乱れや停止、近隣のコミュニティーでの感染状況などがビジネスに影響をもたらす、結果として不安定な状況を作りだします。従業員がひとり感染した時点で、組織全体へのリスクが急激に増加する企業を、「伝染している」「伝染していない」の基準で考えるのはあまり効果的ではありません。

企業単位で取るべき対策は、ビジネスの拠点でのリスクと、その対策を取るコストを考慮し、判断します。オフィスや店舗がある地域の警戒レベルも把握して下さい。グリーンゾーンは感染者が確認されていない、または、外部からの感染している少数の旅行者のみが確認されている地域です。イエローゾーンは、少数の感染者がいるが、全体に感染が広がっていません。オレンジゾーンは、レッドゾーンに隣接する、または、小規模なクラスター感染のある地域です。レッドゾーンは地域全体で感染が広がっています。

人々は、見えない感染ネットワークでつながっています。ネットワーク中にも、人と人との

直接の接触、咳、くしゃみ、普通の呼吸から拡散されるウイルス粒子を含んだ空気の共有、そして人とウイルス粒子の付着した物の接触など、数々のリンクがあります。私たちが普段の生活をしている間にも、感染ネットワークは職場や、家族・友人・近隣の人々など、公私両方の人間関係をつかって、常に動作しています。個人や組織がウイルスを拡散させるリスクは、このネットワークとの繋がりによって定義されます。

ウイルス拡散を防ぎ、社会へのリスクを抑えるには、この見えない感染ネットワークを遮断しなければいけません。そのためには、アウトブレイクより先回りをできるような、積極的かつ大胆な対応と対策が必要です。企業は、様々な対策方法とそれらがビジネスにもたらす影響を把握し、各警戒レベルにおいてどの対策を打つべきかを判断できなければいけません。例えば、グリーンゾーンで打つ対策と、イエロー、オレンジ、レッドゾーンで打つ対策は違います。

見えないネットワークを劇的に制御するためには、過剰とも思える対策をしなければいけないこともあります。対策がリスクに追いつかないと、指数関数的な拡散が続き、更に大きな対策やコストを要します。広域での大きなアウトブレイクの収拾作業をするより、起こる前に対策を練っておきましょう。早急に対応することで、今後さらなる乱れとコストを招く長期的な対応をする必要がなくなります。少しの予防は、たくさんの治療よりも効果的です。

ビジネスが、ビジネス自身とビジネスに関わる全ての人へのリスクを軽減するためにできることをまとめました。本質的な改革を起こすには、個々の行為だけでなく、ビジネスの行いかたも見直さないといけないかもしれません。

## 一般

- ・ 従業員とその家族の、コロナウイルスの伝播と予防に関する理解を促進して下さい
- ・ 伝染を減らすための、企業毎のポリシーを開発し、細心の注意を払って実施して下さい
- ・ 軽度の症状が出た場合でも出社や直接のミーティングに出席してはいけないこと、病欠にペナルティーは無いということに対する理解を従業員に促し、報告システムを作ってください
- ・ 症状が軽度であっても、従業員がケアを求めることを躊躇しないように、従業員全員が適切な健康保険に加入していることを確認して下さい
- ・ 従業員におけるコロナウイルスの早めかつ迅速な検査を実施できるように、地元の医療施設と提携して下さい
- ・ 状況が悪化し、従業員が必需品(手の消毒剤、アルコール、マスク、赤外線非接触型額温度計)を入手できない場合に備えて、準備をして下さい
- ・ 組織の最も脆弱な部分を強化することによって、事態が悪化することを回避してください。

## ミーティング、出張、訪問者

- ・ ミーティングはリモートに切り替えて下さい
- ・ 可能な限り在宅勤務に切り替えてください
- ・ リスクの高いゾーン(レッドゾーン、オレンジゾーン、そしてイエローゾーンも)への出張を制限して下さい
- ・ 必要でない出張を許可しないで下さい
- ・ 通常なら必要とされる出張もキャンセルできるように、会社の文化、運営体制を見直してください
- ・ 訪問者を制限する。居住ゾーンの警戒度コードやコロナウイルスに対する対策を確認し、それに基づき出張を却下するポリシーを実施して下さい

## 職場

- ・ フレキシブルな労働時間、また労働時間をずらすなどして、職場の人口密度を下げる。人口密度は、常に通常の50%まで下げて下さい。
- ・ 感染が確認されている地域から戻って来る従業員には、出勤を再開する前に必ず14日の自己隔離をすることを義務づけて下さい。また、従業員は、各々の健康状態を注意深く監視・報告し、必要に応じて医療処置を求めるようにして下さい。
- ・ 出入り口では、赤外線非接触型額温度計を持つスタッフを常駐させて下さい

- ・ 毎日従業員の体温を測定し、人との接近を避けることができない場合はマスクを提供して下さい<sup>1</sup>
- ・ 出入り口やオフィス入り口に手指消毒剤を設置し、通路をコントロールすることによって、入場時の手洗いを促進して下さい
- ・ エレベーターでのクラスタリング避けて下さい。エレベーターには、収容人数の半分以上の乗客を乗せないようにして下さい。
- ・ 作業スペースは少なくとも1メートル間隔をおいて区分し、各作業スペースは少なくとも3平方メートル設けて下さい。従業員数が多いオフィスでは、間隔やスペースを更に大きくして下さい。
- ・ 共有エリア、通行量多いエリア、頻繁に触れられる面の殺菌消毒をしてください
- ・ エアコンを使用せざるを得ない場合は、換気はしないで下さい。フィルターなど、主要部品は毎週清掃・消毒・交換して下さい。
- ・ 食事のタイミングはずらし、最低1メートル間隔を置く。対面して座らない。食器などは分け、頻繁に殺菌消毒する。食堂スタッフは、健康状態を頻繁にチェックして下さい。
- ・ 外出を避けるため、弁当の配達などを促進して下さい。並ばず、かつ人との接触をせずに弁当の受け渡しをできるように、手配して下さい。
- ・ 従業員の通勤手段を把握し、公共交通機関を避ける、たくさんの人が触れるものには触れない、手洗いをする、リスクの高いエリアではマスクを着用する、などの勧告をして下さい
- ・ コロナウイルスへの対策を設定する責任者を明確にして下さい

## リテールおよびホスピタリティ

- ・ 人との接触が多い産業は、多大な影響を受ける可能性があります。早い段階での効果的な介入をすることでリスクを軽減することは可能ですが、それが社会全体で取り組まれない限り排除することはできません。
- ・ 軽い風邪のような症状であっても、必ず他人との接触を避けないとはいけません
- ・ 日々の人との接触の明確な記録を取り、保管して下さい。もしも感染があった場合に、感染者と接触した全ての人との対応をできるように、また、従業員とお客様療法へのリスクを軽減するためです。
- ・ なるべく人との接触をせずに業務を行える手段を設定・実装しなければいけません。例えば、
- ・ 商品の受け渡しをする窓口を設置する。列を作る場合は、十分な間隔を空けて並ぶ。
- ・ ドライブスルー窓口の設置
- ・ 接触のない宅配サービス

<sup>1</sup> マスク仕様の効果については、さまざまな意見がありますが、①軽い症状でも、症状がある場合は、人との接触を避け、公私共に人と接触する場合はマスクをお着用して下さい。②健康状態が良くない人がマスクを着用することに 負い目を感じないように、公の場でのマスクの着用を受け入れて下さい。③マスクを着用したからといって健康が損なわれない確証はなく、医療施設など優先度の高い現場があるので品薄にはなっているかもしれませんが、人口密度が高く人との接触が避けられない場所での着用は感染のリスクが劇的に低下します④50歳以上の人、既存の健康上の問題がある人、またはリスクの高い地域にいる人には、コストが高くてもマスクを着用することを推奨します。